

愛犬に教えてもらったこと

二年 原田 優

私の家には私が生まれる前から犬がいた。家で飼っていた犬は、ラブラドル・レトリバーという犬種。性格はすごく大人しく、おだやかで人が大好き。私は、愛犬としてみたい事がたくさんあった。でも、愛犬は13歳で老犬で足が弱くなってしまったりして階段を一人で登ったり降りたりすることができなくなっていた。私の誕生日の次の日、愛犬が初めて心臓発作をおこしてしまった。その日の発作がおわっても何日もあった。4月16日。私は、いつもとかわりなく生活していた。その夜の、愛犬がすごく甘えてきた。私以外の家族にも。少し時間がたつと前と同じように心臓発作をおこした。いつもの心臓発作とは違って長くて、きついはずなのに家族全員の顔をみて何かをずっとと伝えていようような顔をしてがんばって息をしていた。家族全員で愛犬をさわって話しかけると安心したのか4月16日の夜10時に愛犬は息をひきとった。息をひきとる前に甘えてきたのはあいさつのように。でも、私はあいさつとは知らずにいつものように愛犬をさわった。今思うともっとあのときにたくさんさわってあげていたらなって。たくさんさんの愛犬との思い出がよみがえる。私が生まれて家にきたときから一緒にいてくれた。他にも、私がいやな事があった日は隣で寄り添ってくれたり、私の顔をぺろぺろしてなく

さめてくれたり、悩み事を聞いてくれた。おもしろい思い出もある。愛犬がゴミ箱でいたずらをしてゴミ箱が頭にはまっていたり、うれしいときは家の中でくるくるまわっていたり。散歩も旅行もたくさんいった。こんなに楽しい日が今日で最後になるとは思ってもいなかった。愛犬が息をひきとってしまった日から1日1日がすごく長く感じた。愛犬が生きていたときは学校から家に帰ると「おかえり」とむかえにきてくれたがそんなこともなくなってしまったし、家の中が少し静かになってしまった。私達家族からしたら、すごくすごく大きな存在でかけがえのない家族だった。小学四年生だった私は、命についてあまり深く考えたことがなかった。でも、私の家族である愛犬が教えてくれた。命について。命は、かけがえのないもの。命とかけられるものは世界で一つも存在しない。今、世界で生きている人、動物には全員に命がある。一人の命、一匹の命がなくなれば悲しむ人がある。そのくらい、命はかけがえのない大切なもの。私が成長できているのは自分の命があるからだけでなく、家族やまわりの方の応援のおかげ。私の命を大切にしてもらったことを感謝して大変なことでもたくさんあるかもしれないけど大切にしたい人生をあゆんでいきたい。

最後に私達家族である愛犬のラムへ

ラム、私達の家族になってくれてありがとね。ラムに出会えてすごくうれしかったよ。私と弟が成長する姿をみていてね。大好き。